

木津川市教育委員会会議録

令和5年第8回木津川市教育委員会定例会

○日 時：令和5年8月24日（木） 午前9時30分から午前11時8分まで

○場 所：市役所庁舎第2北別館 2階会議室

○出席者：森永重治教育長、有賀やよい委員、小松信夫委員、佐脇貞憲委員、皆川麻紀委員
（事務局）竹本教育部長、大村理事、吉村理事、吉岡教育部次長兼こども宝課長、平井学校教育課長、福井学校教育課担当課長、東村社会教育課長、永澤文化財保護課課長補佐

傍聴の申請があり、木津川市教育委員会会議規則第12条及び木津川市教育委員会傍聴規則第2条の規定に基づき、許可する。

〈傍聴者入室〉

1. 開 会 教育長
教育長あいさつ

2. 前回会議録の承認
委員から異議なく承認された。

3. 議事

《議案第27号 令和5年度木津川市一般会計補正予算第5号について》

教育長が、事務局に説明を求めた。

事務局が、議案書に基づき説明を行った。

〔説明〕

令和5年第3回木津川市議会定例会に提出する木津川市一般会計予算案を編成するにあたり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定により、教育委員会の意見を聴取するもの。

令和5年度補正予算第5号は歳入、歳出とも1億1千79万5千円を追加し、総額327億245万4千円とする。そのうち9款教育費は3千36万2千円を追加、合計45億8千411万5千円、一般会計予算総額の14.02%となる。

主な事業について、附属資料を基に説明。

【質疑応答】

委員：教育支援センター加茂分室はいつから開始になるのか。

事務局：予算決定後、11月頃整備ができると思う。現在の高の原小学校は通室の関係か、加茂地域からの申し込みがない。分室を作ることで、加茂地域から通いやすい状況を作る。

委員：分室の場所はどこか。

事務局：泉川中学校区内で調整中である。

委員：特別な配慮を要する児童生徒が増加傾向とのことだが、現状は。

事務局：ここで言う特別な配慮を要する児童生徒は、普通学級に在籍する中での児童生徒であるため、明確な人数は把握できていないが、当初予算では支援員約20人分を確保している。母数が多くなると、支援が必要な児童生徒も多くなるため、城山台小学校、木津中学校、木津南中学校に1人ずつ増員する予定である。

委員：文化財公開管理事業費で藤原百川公墓の柵の整備工事費があがっているが、土地は木津川市の所有か。

事務局：市有地と民地がある。

委員：特別支援教育支援員の勤務状況はどうか。時間的にはどれくらいなのか。

事務局：学校により必要とする時間が違うので、配置する際には相談している。パートタイムになるので、臨機応変に配置している。

委員：学校に配置し、その中で時間帯を設定しているのか。

事務局：その通り。

【採決】

教育長が議案第27号について採決を行い、全員一致で可決された。

《議案第28号 木津川市史跡恭仁宮跡保存活用計画策定委員会条例の制定について》

教育長が、事務局に説明を求めた。

事務局が、議案書に基づき説明を行った。

〔説明〕

史跡恭仁宮跡保存活用計画を策定にあたり委員会を設置するため、木津川市史跡恭仁宮跡保存活用計画策定委員会条例を制定する。

【質疑応答】

教育長：保存活用計画の策定はいつ頃になるのか。

事務局：令和7年度に特別史跡昇格を目指しており、それに向けて必要になるため、令和6年度中に策定する予定である。

委員：宮域と京城確定とは別か。

事務局：宮域は平成8年度に確定しているので、その中の土地についてどのように保存活用

していくかを計画を策定するもの。平成17年に1～3種の規制や土地の公有化について決めている。この委員会では京都府の恭仁宮跡活用整備検討協議会の整備案の内容にもよるが、規制の変更や公有化の進め方なども検討し、決定されることになる。

【採決】

教育長が議案第28号について採決を行い、全員一致で可決された。

《議案第29号 令和6年度以降使用小学校教科用図書の採択について》

教育長が、事務局に説明を求めた。

事務局が、議案書に基づき説明を行った。

〔説明〕

前提として、公立学校の教科用図書の採択権限は所管する教育委員会にあり、各市町等教育委員会は属する地区の採択地区協議会の選定結果に基づき採択することになる。木津川市は山城地区に属している。採択の時期は、使用年度の前年度の8月31日まで。

採択基準は5つの基本観点を指標としている。今回は13教科52種目の教科書について検討された結果を資料として提出している。

教科種目ごとの主な選定理由について説明。

【質疑応答】

教育長：質疑は教科種目ごととする。まず総論について。今回の選定で重視された視点や特徴的なことは。

事務局：若手教員の増加や山城地区の学力の実態等を踏まえて協議された。具体的には①学力向上の視点②公教育として公平性が担保されているか③若手教員でも授業で使いやすいか④児童生徒が親しみやすく、使いやすいか。主体的・対話的に学習に取り組めるか。の4点。特徴としては、学習指導要領の内容を網羅し、「主体的・対話的で深い学び」に向けて、授業改善や他教科との関連によるカリキュラム・マネジメント推進のための工夫が多く見られる。また、主体的な学びとして家庭学習でも活用できるように、1人一台端末の配置を前提としたQRコードなど視覚的に確認できるものが多かった。

教育長：国語科について。

委員：1年生は絵本が掲載されており、入りやすい形になっていて楽しく学べそうだという印象を受けた。4年生になると、視覚的だけではなく、文字を読む力の中で論理的にどのように表現するのかという点にも力が入っていると思った。ほかに大事な視点はないか。

事務局：論理的思考を重視している教科書である。子どもたちが主体的に興味を持って学べることが前提になり、大事なことである。そのため写真や挿絵など親しみやすい工夫

がされている。また話し合い活動も大事なことであり、話し合いの学び方についても視点として示されている。

教育長：書写について。

委員：正しい文字の書き方の押し付けではなく、動体的、三次元的な含みがある。手本の横に指示書きがありわかりやすい。書く体験が減ってきているが、大人には必要な力である。正しい書き方など順に学べると感じたが、注目すべき点はどこか。

事務局：この教科書の特徴として「書写のかぎ」というページにポイントがまとめられている。書く時の姿勢や、鉛筆や筆の持ち方など、押さえどころや細かなポイントがわかりやすく示されている。

委員：字の上手下手の評価だけではなく、ポイントを押さえることでより読みやすい、伝えやすい、心に入った字に近づけるように思う。進化していると感じた。

教育長：社会科について。

委員：木津川市民は歴史的に古い地域に住んでいる。この教科書には近畿地方も大きく取り上げられているが、地元の子どもたちが興味を持つ工夫はどのようにされているのか。

事務局：題材として京都、姫路、栗東など近畿地方が多く取り上げられている。4年生の水についての単元では、宇治の天ヶ瀬ダムが取り上げられている。身近な場所なので、親しみやすいと思われる。

教育長：地図について。

委員：出版社によりページ数が違う。多い方が情報量が多いという判断か。

事務局：記載内容はそれぞれ工夫されているが、選定されたものはより詳しい記載がされている。また外国語や外国での活動との関連や、偉人などについての情報など地図だけではなく、付加価値の情報なども一緒に掲載されている。

委員：社会科6年生の教科書では「都を恭仁京にうつす」とあるが、地図では「恭仁宮」となっている。今後どうなっていくのか。

教育長：恭仁京の条坊制の範囲は諸説あり、確定できていない。

事務局：編纂物である続日本紀には恭仁京となっている。都を遷す時などは恭仁京を使うことが多い。

教育長：都城の計画として恭仁京はあったが、範囲が明確ではない。恭仁宮は場所がはっきりしている。

事務局：おそらく地図上ではっきりしない場所を掲載することは難しいのではないかと。言葉の使用の仕方として恭仁京も恭仁宮も間違いではない。

教育長：算数科について。

委員：子どもにより理解度が違う。苦手な子、得意な子の両方に対して配慮はあるのか。

事務局：苦手な子どもは導入でつまづくことが多い。各学年とも「準備」ページがあり、前学年のまとめなどを掲載し、関連する基礎を押さえてから新しい学習に入るようにな

っていることがこの教科書の特徴である。また「発展」「もっと練習」ページには発展的な内容が掲載されている。QRコンテンツで解説もあり、家庭での振り返りもできるようになっている。

委員：「9歳の壁」との言葉がある。多くの子どもたちは小学校3年生から6年生くらいで抽象的な考え方ができるようになる。そこを乗り越えないと算数や理科などは理解しにくく、苦手になってしまうので、丁寧な指導が必要になってくる。

事務局：抽象的思考は一つの壁である。選定された教科書は、新しい単元の直前に基礎になる学習を押さえなおすように細かく丁寧な説明が多いこと、また1時間の授業での流れを細かく分けて示されており、つまづく前に細かくチェックし、丁寧に進められるようになっていることも特徴である。繰り返しになるが、動画コンテンツが多く、抽象思考を頭の中で巡らせることは難しいが、動画を見ながら視覚的に関連付けて考えることができる。

教育長：理科について。

委員：理科教育としての目標と単元としての目標がある。単元の目標はそれぞれ示されている。理科教育の目標としては、自然科学の体験を教え、どのように科学的思考力をつけるか、問題解決学習をどうしていくかが重要。教科書選定に当たっては、単元の構成と理科の目標達成のための流れが交差しているかも大事な視点であると思う。選定された教科書はそういった点についても配慮が見られる。ほかに特徴的なことは何か。

事務局：1時間の授業の中でのサイクルが工夫されている。問題をつかむ、理解したことをもとに予想し、観察や実験の計画を立て、実行し、その結果から考えることは何かを考え、まとめ、さらに知りたいことはないか考える。という構成を繰り返して進められるため、必然的に学びのサイクル、思考の流れが育っていく。科学的、問題解決的な思考力が育つ工夫がされている。

教育長：生活科について。

委員：生活科ができて30年程度になる。生活科の教科書選定に当たっては幼児教育から小学校への接続と社会科・理科への接続の両方を見ていく必要がある。この教科書には身近なことも入っているが、特徴はどんなところか。

事務局：幼児期の教育から生活科へ入り、中学年へと接続する。上巻巻頭には幼児期からのカリキュラムを意識した内容になっている。1、2年生で学習し中学年以降の社会科・理科などにつながるステップを踏むつながりを意識した構成が特徴である。身近な生活場面を意識させるため、写真などが活用されている。単元末には暮らしの中はどうつながるのか、まとめて整理されている。

教育長：音楽科について。

委員：ほかの教科との関連はどうなっているか。外国語や社会科など他教科との連携で工夫しているところは

事務局：カリキュラムマネジメントの視点もあり、他教科との連携を意識している。例えば生活科との関連で昔遊びに関連した歌や、外国語との関連で全学年英語の歌詞、社会・総合で地元の祭りに使えるような歌、国語科で掲載されるごんぎつねの音楽劇などが掲載されている。

委員：音楽が苦手な子どもにも意欲がわくような工夫は。

事務局：苦手意識を持ちやすいもののひとつである楽器演奏についても細かく段階を踏んでいる。例えばリコーダーの指使いは学年が上がるごとに増えて難しくなっていく。指の使い方などわかりやすく示している。またキャラクターがふんだんに使用されており、そのキャラクターたちが歌を歌う時の感情や意識することなどをアドバイスするなど、サイドから思考をふくらませる工夫がされている。

教育長：図画工作科について。

委員：興味を持つ子どもたちには楽しい教科だが、技術的に教えるのが難しいのではないかと思う。他の教科との関連についてどのような評価をしているか。

事務局：他の教科との関連について工夫されており、單元ごとに関連する教科について明示されている。例えば道徳の内容とのつながりや、社会科では土器などに関連を明示することで、子どもたちも意識しやすくなっている。「つながる学び」という視点で構成されている。

教育長：家庭科について。

委員：家庭だけではなく、地域との関りについてもふれている。その点についての工夫はあるのか。

事務局：家庭科は知識として持つだけではなく、家庭や地域で生かしていくことが大事な視点である。この教科書では単元の最後に「学習をふりかえる」ページでめあてをチェックし、「生活にいかそう」という欄に1人1人考えて書き込むようになっている。そのことで、学んで振り返り、次に生かすことを意識させ、発展して自分のこれからの考えることにつなげている。

委員：苦手な子どもたちへのフォローはできているのか。

事務局：写真付きで手順が示されており視覚的にわかりやすい配列となっている。またQRコードが充実しており、流れごとに選択するボタンがあり、例えば裁縫なら糸通し、縫うなど分けて動画を見られる。苦手な子どもにとっては、目の前でアドバイスを見られることは大きなポイントである。

教育長：保健について。

委員：図が大きく具体的な内容が一目でわかるよう工夫されている。しかし、3、4年生がこの教科のはじめであるのに、健康とは何か、理想の生活習慣など抽象的な入り方になっている。子どもの抱える健康問題は、学校に行きたくないと思う心身症的なもの。心の問題では友だちとうまく遊べない、コミュニケーションが苦手などの理由でそこから遠ざかったり、不調を抱える子どもが多いと思う。この点について5、6年

生で詳しく説明されている。この組み立て方では、自分の健康状態をどう見ていくかの力をつけ、個性の違いや個人差、多様性に気付くのが後になると思う。それでもこの教科書が選定されたのは、障害やLGBTなど多様性に配慮されている点で、良いと思うが、後になっている。発達の早い子もいるので、学ぶまでに悩んでしまう。不登校のピークなどともずれていると思う。良い点があるのは承知した上だが、今後、作成や選択の際には、そういった点も考慮してもらえたら良いと思う。

事務局：学習指導要領の内容に合わせているので、学年ごとの内容は画一的になっていると思う。指摘の内容は中学年でも大事なことと意識しながら実際に指導していく必要があると思う。

委員：3、4年生と5、6年生の教科書を一緒に渡して地域の実態やクラスの状況に応じて使い分けることができれば良いとも思う。三食しっかり食べて、よく寝て、清潔な環境にいることが理想的だが、貧困の問題などでできない家庭も増えている。そういったことを深く考えるには少し物足りなさを感じる。

教育長：子どもたちの背景にはいろいろなことがある。一つの指導要領の中で国民教育としての共通教育を作っていくには、教員の指導力もあるが、個人に着目する時代になっていくと思う。

教育長：英語科について。

委員：英語科は昨年度までの会社から変わった。これまでずっと使用してきたニューホライズンも聞いたり、書いたり、話したりすることに力を入れていたと思う。今年度採択された教科書は入り方が楽しい。子どもたち同士の生活の中で外国人に会ったり、同級生になったりしたときに積極的にコミュニケーションを取ることが大事であるが、日常的な表現も多く取り入れられている。選択基準で変わったところ、強調したい点について聞きたい。

事務局：英語科導入の小学校段階では、親しみやすく、なじみやすく、楽しいと思えることが大事である。採択された教科書は書き込む欄が精選されてシンプルに整理されている。苦手な子どもは、教科書を開いたときに情報量や書くことが多いとしり込みしてしまう。また指導者からは、指導が自由で展開が組みやすい、指導者の思いで授業を組み立てられるなどの意見があった。

教育長：道徳科について。

委員：道徳ノートがついているが、あった方がいいのかどうか疑問に思っている。教える側としてはあった方がいいかもしれないが、考えを深める場合には、考えの広がりがないのではないか。道徳ノートのあり方について聞きたい。また考えを深める手立てが示されているとのことだが、具体的にどのようなものか。

事務局：道徳ノートは、指導する側にとっては、授業の展開から考えても使いやすい。子どもたちにとっても自分の学習のふりかえりがしやすいと思う。理解を深める手立てとしてはそれぞれの単元の中に挿絵や写真などをふんだんに取り入れて、場面が理解で

きるように発問も詳しく掲載されている。またポイントがわかりやすく整備されている。リード文で教材の理解についてある程度最初に理解した上で本文に入れることも理解を深めやすい点である。

【採決】

教育長が議案第29号について採決を行い、全員一致で可決された。

3. 教育長報告（令和5年8月1日～令和5年8月24日）

教育長が、事業報告に基づき報告を行った。中でも次の点について、説明があった。

- ・ 8月 4日 令和4年度決算に対する監査委員の講評を受けた。
- ・ 8月14日 台風7号対応のため災害警戒本部が設置された。
- ・ 8月16日 中学生海外派遣事業出発式
- ・ 8月18日 京都府教育委員会教育長と各市町（組合）教育長等の懇談会に出席した。
- ・ 8月22日 京都府へ要望活動を行った。
- ・ 8月23日 市の文化財保護審議会
- ・ 8月24日 いじめ防止対策委員会

4. その他

（1）今後の行事予定

委員が、今後の行事予定について説明を行った。

【質疑応答】

委員：今年度小中学校等の運動会への出席はどうか。

事務局：来賓の制限はしない方向なので、確認して後日連絡する。

（2）中学生の部活動における相楽地方及び山城地方の大会結果について、委員が報告した。

（3）次回教育委員会は、令和5年9月28日（木）午前を開催予定とすることを確認した。

教育長が、会議を閉会した。